

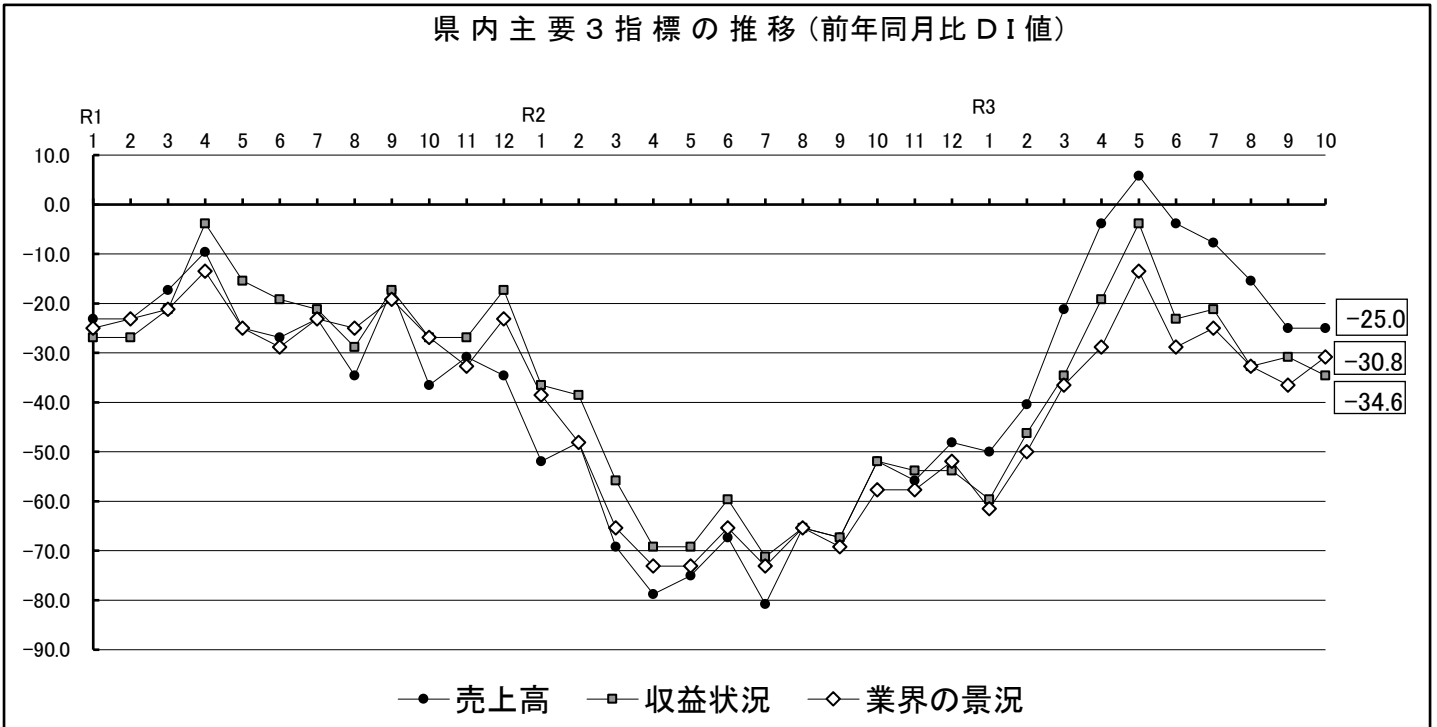
# 中小企業団体情報連絡員報告結果(令和3年10月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標「売上高」は変化なし。「収益状況」は下降したが「業界の景況」は上昇した。
- 製造業で「食料品製造」「印刷」、非製造業で「小売業(飲食業)」「運輸業」で特に厳しい状況。
- 緊急事態宣言解除となったが原油高騰などの影響から業況は足踏み状態となっている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-25.0	0.0	-17.6	+4.1
収益状況	-34.6	-3.8	-31.4	+2.1
業界の景況	-30.8	+5.8	-27.9	+5.3

### 売上高

当月の県内売上高DI値は、前月同様-25.0ポイントとなった。全国においては、前月より4.1ポイント上昇し、-17.6ポイントとなった。

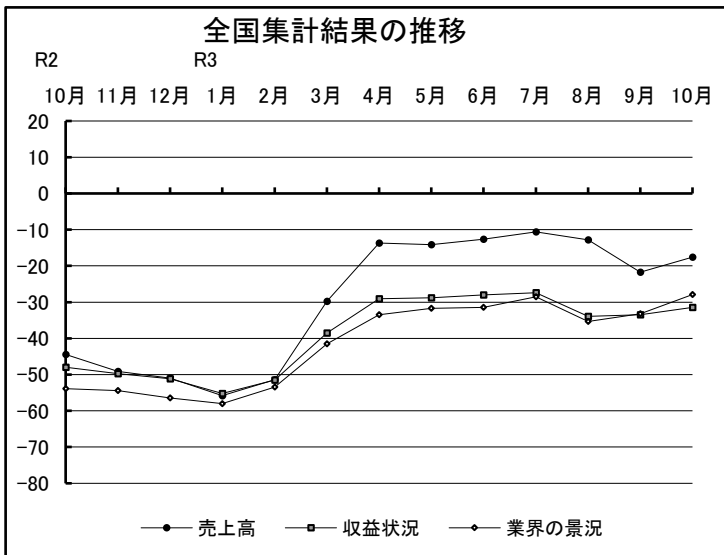
### 収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より3.8ポイント下降し、-34.6ポイントとなった。全国においては、前月より2.1ポイント上昇し、-31.4ポイントとなった。

### 業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より5.3ポイント上昇し、-30.8ポイントとなった。全国においては、前月より5.3ポイント上昇し、-27.9ポイントとなった。

全国集計結果の推移



## -概況-

10月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中5指標が上昇した。主要3指標は「売上高」は前月と変化なし、「収益状況」が3.8ポイント下降、「業界の景況」が5.8ポイント上昇となった。原材料の高騰・部品の調達不安等の声（特に木材・木製品業）が依然として寄せられている。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「食料品製造」「印刷」で「売上」が-100ポイントで前月よりも下降し厳しい。特に、「木材・木製品」ではウッドショックの長期化が続いているがそれ以外の各種資材等の品薄・価格高騰も収まっていない。「鉄鋼・金属」では、引き続き半導体不足で製品が納品出来ない状態が続いている。非製造業においては、特に「小売業(飲食業)」「運輸業」等で依然としてマイナス状態となっている。

当月は、緊急事態宣言が解除され業況が好転するかと思われたが、足踏み状態となった。各業界からは、原材料の仕入れが困難、原油価格の高騰による影響が懸念されるなどの報告が続いている。ワクチン接種が全国的に広まり感染者数の減少が顕著にあらわれているが、景気の改善につながる様子は未だ見られないことから、引き続き予断を許さない状況といえる。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-100.0	75.0	0.0	-25.0	-50.0	-25.0	-50.0	0.0	-50.0
繊維・同製品	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	-75.0	-25.0	-25.0	-25.0	-75.0
木材・木製品	0.0	-50.0	50.0	0.0	-25.0	0.0	50.0	-50.0	-25.0
印刷	-100.0	0.0	0.0	0.0	-100.0	0.0	0.0	-100.0	0.0
窯業・土石	-50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	-50.0	0.0	-50.0
鉄鋼・金属	-25.0	0.0	0.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0
一般機器	75.0	0.0	0.0	-25.0	25.0	50.0	50.0	0.0	50.0
製造業	-28.0	0.0	8.0	-12.0	-32.0	-4.0	-8.0	-20.0	-28.0
卸売業	0.0	-33.3	0.0	0.0	0.0	-33.3		0.0	0.0
小売業	-85.7	-28.6	14.3	-14.3	-57.1	-57.1		0.0	-57.1
サービス業	16.7		-16.7	-33.3	-50.0	-50.0		-33.3	-33.3
建設業	0.0		0.0	0.0	-20.0	0.0		0.0	-20.0
運輸業	-50.0		0.0	0.0	-50.0	-50.0		-25.0	-50.0
その他	50.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-22.2	-30.0	0.0	-11.1	-37.0	-37.0		-11.1	-33.3
全体	-25.0	-8.6	3.8	-11.5	-34.6	-21.2	-8.0	-15.4	-30.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	2年 10月	11月	12月	3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	前月比
売上高	-51.9	-55.8	-48.1	-50.0	-40.4	-21.2	-3.8	5.8	-3.8	-7.7	-15.4	-25.0	-25.0	0.0
在庫数量	-22.9	-22.9	-25.7	-14.3	-8.6	-11.4	-20.0	-17.1	-14.3	-20.0	-17.1	-25.7	-8.6	17.1
販売価格	-7.7	-11.5	-7.7	-13.5	-9.6	-3.8	-3.8	3.8	-5.8	3.8	0.0	-3.8	3.8	7.7
取引条件	-21.2	-19.2	-19.2	-15.4	-17.3	-11.5	-9.6	-9.6	-15.4	-11.5	-13.5	-17.3	-11.5	5.8
収益状況	-51.9	-53.8	-53.8	-59.6	-46.2	-34.6	-19.2	-3.8	-23.1	-21.2	-32.7	-30.8	-34.6	-3.8
資金繰り	-28.8	-26.9	-26.9	-26.9	-26.9	-19.2	-9.6	-13.5	-21.2	-15.4	-23.1	-23.1	-21.2	1.9
設備操業度	-40.0	-48.0	-32.0	-36.0	-24.0	-20.0	-12.0	12.0	0.0	4.0	0.0	0.0	-8.0	-8.0
雇用人員	-9.6	-11.5	-11.5	-13.5	-11.5	-9.6	-11.5	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-5.8	-15.4	-9.6
業界の景況	-57.7	-57.7	-51.9	-61.5	-50.0	-36.5	-28.8	-13.5	-28.8	-25.0	-32.7	-36.5	-30.8	5.8

## 特記事項

## 情報連絡員報告（令和3年10月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	原材料の値上げやガソリンの高騰など今後、非常に厳しい状況になることが予想される。
	あん類製造業	緊急事態宣言が解除されたが、景気の改善につながる様子は見られない。また、輸入豆価格の値上がりも予想され、今後厳しい状態が予想される。
繊維工業	縫製業	生産量が去年より減少し厳しい状態。（30%減）11月は一番仕事量が少ない時期だけに先が見えない。受注品に対しても、原材料の入荷が悪く生産に大きく響いている。
	網・レース・繊維粗製品製造業	コロナの感染状況に落ち着きが見えてきたが、業況はまだ厳しい状態。原料、燃料の高騰もあって、収益状況への懸念も生じてくる可能性も感じる。ただ、昨年と比べ明らかに問合せ案件数やサンプル、現物発注の集荷件数などが増加しているのので、このままコロナの収束とともに業況の好転を期待している。
木材・木製品	一般製材業	ウッドショック問題により先行きが見えない状況である。住宅については、バス・トイレ設備の値上がりも顕著であり、係る理由により、住宅価格が前年と比して約20%程度上昇している。
	家具・建具製造業	総じて業況悪化先が多いが、一部には売上・収益ともに改善傾向の先が見られ、2極化が進んでいる。木材（ウッドショック）以外でも、各種資材等の品薄・価格高騰が収まらず現下最大の経営課題となっている。今後は原油価格の上昇による影響が懸念される。
印刷	印刷業	未だ続くコロナ禍の影響により、印刷物受注の大幅な減少や各種イベント等が開催されないことにより各社深刻な状況が続いていることで危機意識がさらに強まっている。
窯業・土石製品	石灰製造業	全体では、前年並み。鉄鋼向けは順調に出荷しており若干増加傾向にある。肥料関係は微増ではあるが増加している。建材関係は工事物件の減少により砕石、土質共に減少傾向。
	陶磁器・同関連製品製造業	コロナウイルス蔓延のため、陶器市が4回中止になり益子焼業界全体の収入が減っていると思われる。観光客も減少している。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	半導体不足は引き続き変わっていない。また、材料費（有償支給）も高騰している。
	金属製品製造業	原材料費、燃料費の高騰が続いており先行きが懸念される。
一般機器	一般機械器具製造業	前年同月と比較し、全般的に売上高は増加傾向となっているが、仕入れ資材の高騰並びに一部調達が困難な状況を見受けられ、操業度（稼働）に影響を受けている企業がある。企業間格差があるものの収益が悪化している企業は少なくなっている。今後の経営上の懸念はあるものの、企業努力により最悪な状況は回避出来ているので今後も動向に注視していく。
	一般機械器具製造業	コロナ感染者の減少とともに順調に回復してきたが、原材料・燃料費の高騰により今後、収益悪化が懸念される。
	一般機械器具製造業	10月中旬頃までは、景況感があつたが急に下降局面に突入した。半導体不足の影響が顕著になりつつある。この状況がいつまで続くか先が見えなく心配している。
卸売業	各種商品卸売業	一部業者を除き全体として売上高、収益状況、業況等は前年同期に比べ好転となった。

	中古自動車小売業	新車納期の遅れ（生産減少）の為、下取中古車の減少及び高年式中古需要に対応する玉不足で、相場高騰・仕入困難・収益圧迫。
	各種商品小売業	緊急事態宣言も解除され、多少客足も戻るかとは期待していたが、厳しい状況は変わらなかった。失ってしまった客層ではなく、新たな客層へ訴え、減少分をどこでどう補うかが重要である。
	花・植木小売業	例年のとおり高冷地の産地が終わりを迎えてきたのと、中旬以降の冷え込みも影響し暖地物も含め全体的に市場への入荷量は少な目で単価高での推移となった。婚礼はブライダルシーズンということもあり、出席人数を減らすなどの形で式を挙げるカップルが増えてきている。11月の婚礼シーズンピークに期待が高まる。葬儀は、少しずつ大型葬も行われるようになってきた。街中でもイベントが復活してきており、会場装飾などの受注も増えている。
サービス業	理容業	県内の緊急事態宣言も解除となり、以前より来客数も増加傾向にあり、収益もやや元に戻りつつある。ただ、依然として高齢組合員は、コロナ関係で厳しくなり廃業を意識しなくてはならない状況に迫られているため、早急に対応策を考慮していかなくてはならない。
	ビルメンテナンス業	宅配関係の物流業務の受託量が増え、増収となっている。コロナによる緊急事態宣言が解除され、対策のための消耗品費を削減できている。
	給食センター	売上高は、新型コロナウイルスの影響もあるが、新規事業である惣菜の製造販売により前年同月より増加傾向にある。しかし、このまま新型コロナウイルスが終息しない場合は、収益・資金とも悪化していくと思われる。
建設業	総合工事業	ウッドショックをはじめ、ガソリン、銅や鋼材等の建設資材が高騰しており、今後の影響を心配している。
	職別工事業	各組合員とも受注量は増加傾向にあるものの、1現場あたりの単価は低く売上高においては対前年同期並みの売上にとどまっている。
運輸業	貨物軽自動車運送業	定期案件（コロナPCR関連、食品関連、新聞媒体等）が10月をもって減便、終了となり、売上高が落ち込み減収につながった。下半期のスタートと重なり厳しい状況が続くことになる。
	一般乗用旅客自動車運送業	緊急事態宣言解除後は、徐々にではあるが人の動きも多くなり、売上も戻りつつあるように思われる。